

濱松保線区より保線従事員を応援のため現地へ急派し静岡保線区と協力せしめ全力を挙げて復舊に努力し午後7時には袖師、清水間を、同8時には静岡、用宗間を復舊せしめ續いて同8時40分には清水、静岡間下り線を、同9時48分には同區間上線を復舊せしめたのである。かくして袖師、用宗間の線路は事故発生後3時間18分にして全く開通するに至つた。

開通直後1,2箇列車に對して15km/hの運轉制限をなしたが、逐次手入を加へ午後11時30分にはこれを30km/hに緩和し翌13日午前3時15分には之を更に60km/hに緩和した。其の後引續き故障箇所の手入に全力を傾注して線路の完成を急ぎ13日には全く平常運轉に復舊せしむるに至つた。

以上の外列車運轉に直接支障を及ぼさなかつたけれども建物その他に相當の被害があつた。それ等は目下調査中であつて従つて損害額に就ては被害の全貌が判明した後でなければ判らない。

## 清水港に於ける震害状況報告

會 員 工 學 士 嶋 野 貞 三\*

本年7月11日午後5時35分静岡地方に近年稀なる激震あり。被害の最も甚だしきは静岡市域内の大谷、高松の兩部落にして、清水市に於ては大正12年9月關東震災、昭和5年11月駿豆震災以上の被害ありて、市の中央を流るゝ巴川に沿ふ地域の家屋全壊70戸、半壊約200戸に達せり。就中施工中の清水港修築工事の既成並に施工中工作物及び其附近に於て著しく、殆んど港灣工事全般に互れり。

### 被害の状況

#### 1. 岸壁

イ 丙岸壁(水深7.3m) 今回の震害最も甚だしき箇所にして、延長225m、(長14m、巾7m、高8.7mの函塊16個を使用す)の内南部141m間は2.65~5.9m、北部の84m間は0.9~1.22m前方に滑出傾倒し、函塊間に最大0.9mの隙を生じ、全長に互り0.275~0.778m沈下し、背後の土地は陥没せり。

ロ 乙岸壁(水深8.5m) 延長183m(長14m、巾7.8m、高10.4mの函塊14個を使用す)は昭和5年の震災に被害を受け舊工事に於て、中央約127mは横棧橋に改造したる箇所にして、兩側の岸壁部分函塊各2個は0.9~0.2mの滑出を見たるも改造部分に於ては0.11mの移動に止まれり。

ハ 甲岸壁(水深10.6m) 延長211m(長14m、巾9.6m、高13.5mの函塊15個を使用す)全長に互り移動少く最大0.11mに過ぎず。

ニ 追加岸壁(水深10.6m) 延長149m甲岸壁と同様の函塊14個を使用す。甲岸壁に接續する部分は函塊3個を横断とし他端は縦断に施工せるものにして最大0.3m餘前方に移動し、又背後の埋立地は0.5~1m沈下す。

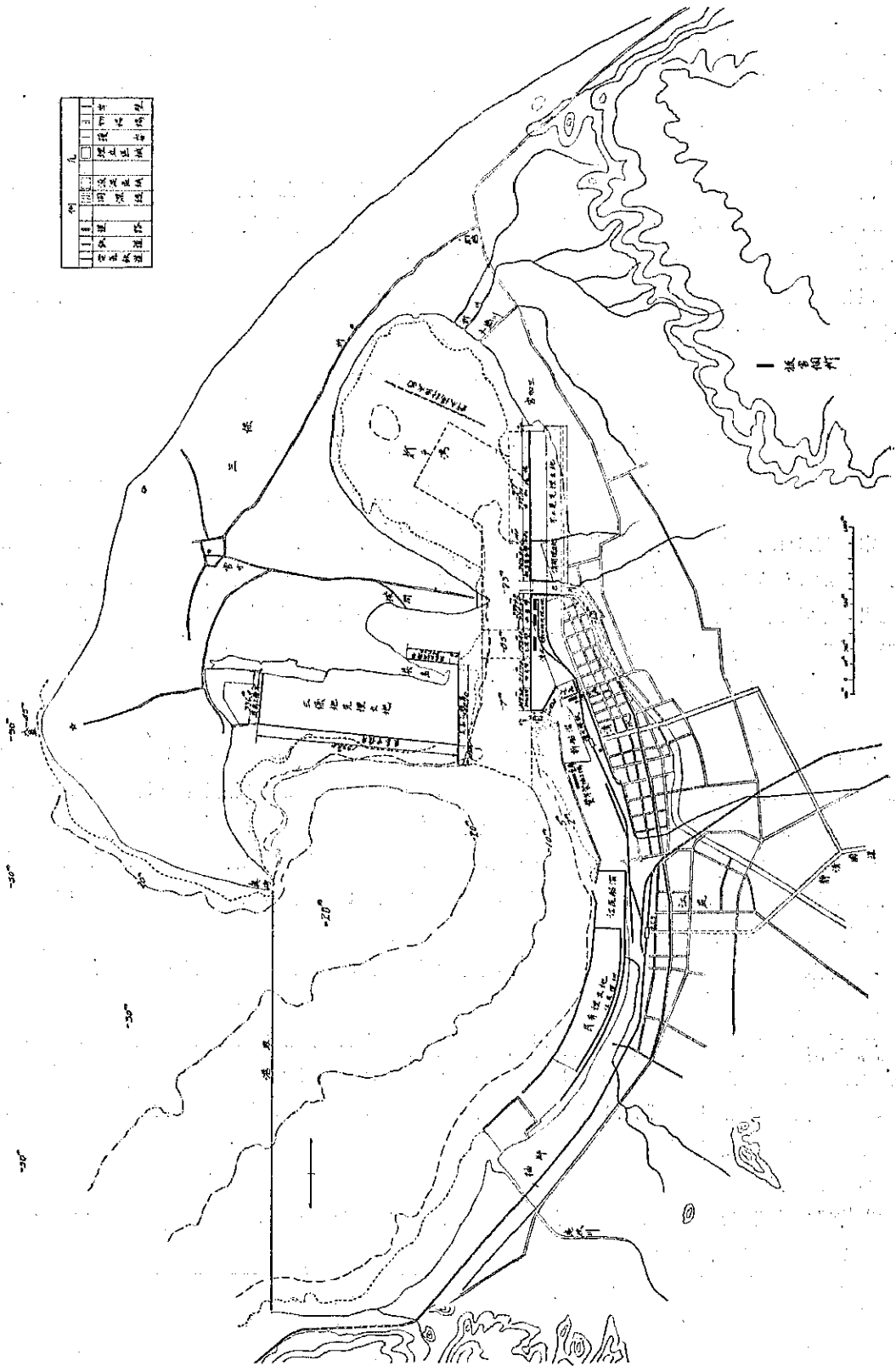
ホ 鐵道岸壁(水深7.3m) 延長265m(長14m、巾7m、高8.7m函塊20個を使用す)は中央に於て1.2m、兩端に於て0.3~0.6mの滑出傾倒を生ぜり。

#### 2. 物揚場及護岸

イ 追加物揚場 延長161m、主要部は長15.4m、底巾2.3m、高3m、L型塊を使用し、斜面はコンクリート張に施工せるものにして、最大0.37mの移動を生じたり。

\* 内務技師 内務省土木局第二技術課勤務

清水港震害箇所平面圖



○	市街地
□	官公庁舎
△	工場
◇	倉庫
●	神社
◎	寺
○	公園
○	橋
○	堤防
○	崖
○	海岸線
○	等高線

□ 乙物揚場 延長 208m, 構造は追加物揚場同様とす。其滑出最大 0.61m にして全長に互り沈下し, 又背面道路に龜裂沈下を生ぜり。

ハ 丙物揚場 延長 176m, 小函塊, L 型塊, 鐵矢板, コンクリート塊を使用しあり, 小函塊及 L 型塊部に於て 0.45~0.5m 滑出し, 鐵矢板部には一部 0.2m の傾倒あり, コンクリート塊にありては一部分に最大 1.75m の滑出沈下を生ぜり。

ニ 甲物揚場 延長 740m, 北端及中央部に於ては長 18m, 底巾 3m, 高 4m の L 型塊を使用し, 斜面はコンクリート張に施工せるものなり。又他の箇所は昭和 5 年の震害の補修工事にして法勾配一割のコンクリート張とす。大部分前方に移動し, 滑出の最大 1.4m に及ぶも南端は被害少し。

ホ 追加護岸 延長 93m (長 15.4m, 底巾 2.3m, 高 3m の L 型塊を使用す) 全長に互り 0.55~0.88m 滑出沈下せり。

ヘ 貝島埋立地西側護岸 延長 544m 中延長約 100m は約 0.2m 前方に移動す。

### 3. 其他の接岸設備

イ 舊波止場護岸 延長 80m は全長に互り約 0.3m 前方に傾倒す。

□ 江尻船溜及江尻運河 船溜周囲の鐵筋コンクリート横棧橋は全長に互り橋脚に龜裂を生じ不同沈下し, 又江尻運河は兩岸延長約 2000m 護岸崩壊し脊面に沈下を生ぜり。

### 4. 陸上設備

イ 兩岸壁背後の第 1 號上屋は岸壁滑出と同時に倒壊し貯藏貨物の大部は陥没せる水中に浸され, 第 2 號上屋は半倒壊す。又乙岸壁背後の第 3 上屋は外見異状なきが如きも, 床面下は沈下のためコンクリート張床に龜裂を生ず。

□ 其他江尻船溜周圍附近に於て魚市場及製油倉庫外 1 棟倒壊せり。